

## 運転指令作業におけるヒューマンエラーのリスク管理支援方法

羽山和紀 宮地由芽子

本研究では、先行研究で開発した「リスク管理支援手法」を運転指令作業に適用し、想定されるエラーのリスク評価と対策優先度評価を実施した。また、既存手法の適用にあたり、評価条件の細分化と影響度評価指標（輸送障害への影響）の追加を検討した(図)。

事故のリスク評価を実施した結果、「(状況把握場面で運転調整の) 抑止指示に漏れがある」や「(状況把握場面で運転調整が) 関係構内の進路競合や遅れ時分等、確認すべき情報に漏れがある」といったエラーのリスクが比較的高かった。また、輸送障害のリスク評価では、「(方針決定場面で運転調整が) 指令員相互間で、運転整理内容の打合わせが行われぬ」などのエラーでリスクが比較的高い結果となった。

(鉄道総研報告, 2012年1月号)

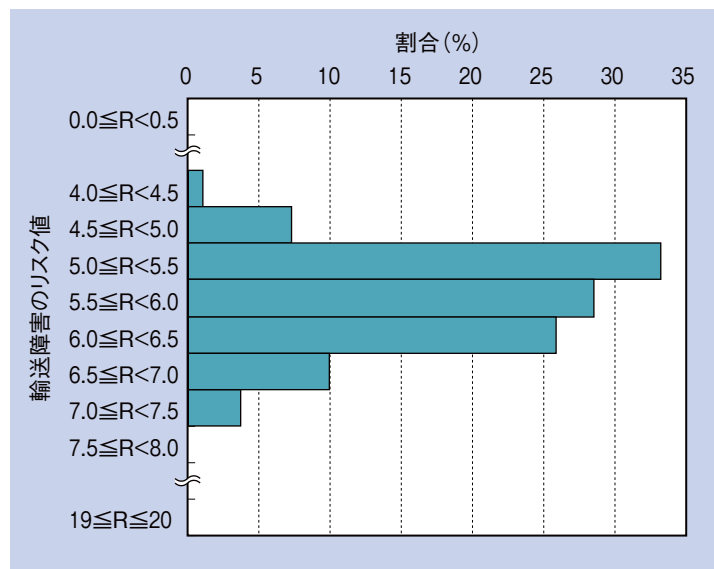


図 輸送障害のリスク値の分布 (n = 300)